

### 3 研究課題に係る外部評価

## 平成30年度岩手県環境保健研究センター研究評価委員会の評価結果

### 1 会議の名称

平成30年度岩手県環境保健研究センター研究評価委員会

### 2 目的

試験研究機関の機能強化や効率的な業務運営の推進、また、効果的・効率的な試験研究の推進を図るため、「岩手県試験研究評価ガイドライン」及び「岩手県環境保健研究センター機関評価及び研究評価実施要領」に基づき、外部の専門家・有識者等で構成する研究評価委員会による外部評価結果を踏まえ、研究計画の変更・見直し等に活用するものです。

### 3 開催日時

平成30年11月26日（月）13：30～14：20

### 4 開催場所

岩手県環境保健研究センター 大会議室

### 5 評価対象（研究評価課題）

研究課題		評価区分	研究期間
1	イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究	中間評価	28-32

### 6 評価委員

役職	氏名	所属・職名
委員長	坂田 清美	岩手医科大学医学部 教授
委員	石川 奈緒	岩手大学工学部 助教
	小浜 恵子	地方独立行政法人岩手県工業技術センター 理事兼地域産業技術統括部長
	渋谷 晃太郎	岩手県立大学総合政策学部 教授
	田端 雅進	森林総合研究所東北支所 産学官連携推進調整監
	村上 賢二	岩手大学農学部 教授

※ 五十音順、敬称略

## 評価方法

評価委員には事前に説明資料を送付し、研究課題の担当職員によるプレゼンテーションの後に質疑等を実施する形式で進め、後日委員から評価調書を御提出いただきました。

機関評価及び研究評価の結果は、説明資料と委員からの評価調書を取りまとめたもので、評価委員の総合評価基準と評価結果に対するセンターの対応方針の基準は下記のとおりとなっています。

### 記

#### 1 研究評価の基準及び対応方針

評価委員には研究課題について、次のA～D評価基準により総合評価していただき、あわせて自由記載で記述評価をいただいております。

	A	B	C	D	E
【事前評価】 (新規課題に対して実施)	重要な課題であり、優先的に取り組む必要がある。	有用な課題であり、早期に取り組む必要がある。	解決すべき問題等があり、今後の検討を必要とする。	-	-
【中間評価】 (継続課題に対して実施)	順調に進行しており問題なし。	ほぼ順調であるが一部改善の余地がある。	研究手法等研究計画を大幅に見直す必要がある。	研究を中止すべきである。	-
【事後評価】 (終了課題に対して実施)	研究の成果は目標を十分達成した。	研究の成果はほぼ目標を達成した。	研究の成果は目標をかなり下回った。	研究の成果は目標を大幅に下回った。	研究成果がなかった

※平成30年度は、事前評価及び事後評価の対象となる研究課題はありませんでした。

研究課題に対する評価委員からの総合評価及び記述評価等のセンターの対応方針は、次のとおりです。

	I	II	III	IV	V
【事前評価】	研究計画のとおり実施	一部見直しの上実施	今後検討	実施しない	-
【中間評価】	研究計画のとおり実施	一部見直しの上実施	研究を一時中断する	研究を中止・廃止する	-
【事後評価】	研究の成果は目標を十分達成した。	研究の成果はほぼ目標を達成した。	研究の成果は目標をかなり下回った。	研究の成果は目標を大幅に下回った。	研究成果がなかった

※平成30年度は、事前評価及び事後評価の対象となる研究課題はありませんでした。

(評価資料1)

<p><b>研究課題</b></p>	<p>1 <b>イヌワシの生息数維持に向けた保全生態学的研究 (2016—2020)</b></p>
<p><b>研究目的・背景</b></p>	<p>岩手県内で 35 つがいのイヌワシが確認されてきたが、2000 年以降、消失するつがいが増えている。その背景には長年に及ぶ繁殖成功率の低迷があると考えられる。今後もイヌワシの生息数を維持していくために、繁殖率の向上に資する保全方法を明らかにすることが求められる。</p> <p>これまでの研究により、県内の生息状況や生態的特性について解明が進められてきたが、個体の移動分散、遺伝的構造、営巣地不明つがいの存在など、生息数の動向を予測するうえで必要となる事項には、未解明な部分がまだ多い。</p> <p>また、繁殖成績や営巣場所の選択についても、地理・地形的条件や植生、気象要因、個体の年齢、隣接つがいの有無等を考慮して、詳細な分析を進める必要がある。</p> <p>本研究では、こうした課題に取り組むことを通じて、岩手県のイヌワシを維持、存続させるために必要な保全手法を明らかにし、提言を行なうことを目的とする。</p>
<p><b>研究内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繁殖状況モニタリング</li> <li>・ ビデオカメラを用いた繁殖行動解析</li> <li>・ 個体識別による移動分散調査</li> <li>・ 遺伝子サンプルの収集と DNA 解析</li> <li>・ 地理情報等を用いた営巣地の分布や繁殖成績の解析</li> </ul>
<p><b>評価結果</b></p>	<p>○ 総合評価 A (3人)・B (1人)・C (0人)・D (0人)</p> <p>○ 総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの成果は十分達成しており、今後二年間で更なる成果が期待できる。</li> <li>・ 全体として、優れた研究を継続しており、さらに継続してほしい。</li> </ul> <p>なお、岩手県だけでは研究発展の限界もあり、環境省等関連機関と連携を深め、更なる発展に向けた工夫をして頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要な研究であり、継続してほしい。</li> <li>・ 順調に進行しており、特に問題はない。</li> </ul>
<p><b>センターの対応方針</b></p>	<p>①研究計画のとおり実施 2一部見直しの上実施 3計画再考 4中止</p> <p>イヌワシは本県の代表的希少野生動物であり、岩手県次期総合計画(案)において、本県の恵まれた自然環境が守られている状況を示す指標として、イヌワシつがい数の維持を設定することが検討されており、イヌワシの保全に繋がる研究は続けていきたい。</p> <p>こうした中で、県内の協力者や大学等との連携により、生息分布の詳細な把握や生息適地の予測を進め、今後、餌場の提供や風力発電との共存などに役立つ成果をあげられるよう取り組んでいきたい。</p> <p>また、県外関係者や環境省との連携も図りつつ、より広域的なスケールで移動分散や遺伝子情報の解析を展開できるよう進めていきたい。</p>